

# 第一回熊本大学附属図書館特殊資料展

## 永青文庫史料にみる細川氏の入国

### 出品目録

昭和59年11月8日～10日

熊本大学附属図書館

- 1. 熊本城図** 整理番号 神45印44番

熊本城は加藤清正によって慶長6年から12年にかけて完成されたが、寛永9(1632)年の細川氏入国後も大きい改修は加えなかったため、維新までほとんど元のまゝの形で残ったといわれる。本図は坪井川に囲まれた城内の配置図で、道、川、藪、堀、空堀を色別けして描いている。  
(121×119.5cm)
- 2. 熊府之図** 整理番号 8.4.93丙

坪井川を内堀として利用した熊本城本丸を中心に、二の丸には重臣の屋敷がおかれた。坪井川南に藩主居住の花畑館があり、手取、千反畑、高田原は中・下級武士の住いであった。南西および北東の黒い部分は町人町である。藤崎宮は城内にあった。(78×77cm)
- 3. 有馬城攻図** 整理番号 神45印62番

寛永14、15年の島原の乱の時の攻め図である。幕府・九州諸大名軍約10万による有馬城(原城)総攻撃は寛永15(1638)年2月27日で、翌28日落城した。本図は正徳3(1713)年、毛利牛右衛門が写したものである。(63.5×66.5cm)
- 4. 御入国行列之図並びに御入国宿割之覚** 整理番号 赤215.13 7.2.1

万延元年、藩主韶邦が参勤交代で入国する時の行列の模様を書いたもので、行列の順序、迎えの家臣、町人たちの位置が地名とともに書かれている。入国宿割之覚は寛永9年12月9日、細川忠利肥後入国の際の御供の総人数とその宿割りの記録で、米屋町、呉服町などのいわゆる古町地区、塩屋町、職人町、蔚山町などの新町地区等の寺院や町人の家にわかれて宿泊した。(31cm×長巻)
- 5. 島原木図幟・馬印之図並びに凡例** 整理番号 4.5.198

島原の乱では幕府軍をはじめ九州諸大名が出陣したが、有馬城(原城)を囲んでの寄せ手陣構えの木図(模型図)が作成された。本資料はその際別冊折本として作成された幟・馬印の図である。(31×22.5cm〈表紙〉折帖)

## 6. 徳川家光書状

整理番号 箱18.4

徳川三代将軍家光(1604~1651)は秀忠第二子。慶長9年江戸西丸で生まれたが、細川忠利は既にそれよりさき慶長5年15才の時、人質として江戸城に赴き家康・秀忠に従ったので、家光の幼少の頃から仕えた。本書は鯉・奈良漬進上の礼状である。(48×62.5cm)

## 7. 老中連署状

整理番号 箱18.5

武家諸法度により当時城の修覆は嚴重に統制されていた。本書は熊本城本丸石垣および八代城本丸石垣の破損修理箇所の申請について幕府が許可したものである。(42×55.5cm)

## 8. 春日局書状

整理番号 108の2

三代将軍家光の乳母春日局(1579~1643)から細川忠利宛の書状。家光の女千代姫は寛永16年9月尾張光友に嫁したが、その祝の品についての相談に対する返事。文中の英勝院は家康側室お勝の方(1578~1642)である。(31.5×47cm)

## 9. 柳生但馬守宗矩書状

整理番号 赤212.15

柳生宗矩(1571~1646)から細川忠利に宛てた書状。柳生の兵法については「活人剣」、「殺人刃」をはじめとする新陰流兵法書が残されている。(17.5cm×長巻)

## 10. 妙解院様江柳生但馬守様より被進兵法巻物 沢庵禅師奥書

整理番号 106.9.12

寛永14年、柳生宗矩より細川忠利に与えた新陰流兵法伝授書で、「白紙をもって兵法の心を伝う」と書き、その後、に沢庵が、唐代の禅僧玄沙師備の故事をひき、兵法の極意も禅の極地も同じく白紙の心でするものと奥書している。(31×43cm)

## 11. 細川忠興書状

整理番号 107.40 12印33番

細川家第2代忠興(1563~1645)は、子忠利に従って肥後に入国し、八代城に住んだ。この文書は、忠利熊本入城の翌日に豊後鶴崎より出したものである。忠興・忠利父子間には数千通の書翰の往復が残されており、「大日本近世史料 細川家史料」(東京大学史料編纂所編 東京大学出版会発行)として刊行中である。(32×45cm)

## 12. 細川忠興書状

整理番号 107.40 21印65番

細川忠利宛の書状としては最後のものである。忠利はこの年(寛永18)1月18日病にたおれた。何か必要の事があれば他の者に書かせるようにと病気を気遣っている。忠利はこの3日後の3月17日没した。56才であった。(16.5×46.5cm)

## 13. 細川忠利書状

整理番号 108.6.8

雲州候(飛騨高山城主金森重頼か)へ塩漬けの南蛮くらげを贈った書状。くらげの料理法について晩の用には朝から水につけてやわらげて用いるようにおしえている。(29.5×45cm)

## 14. 忠利公御家譜

整理番号 7.4.1

細川忠利の事蹟を諸種の記録や書状からあつめて編年体にまとめたもの。忠利は天正14年忠興三男として誕生、元和7年家督相続し、小倉藩主ついで肥後藩主となり、寛永9年12月9日熊本城に入った。(26×19.5cm〈表紙〉)

## 15. 郡中政令に関する細川忠利判物

整理番号 107.29.6

細川忠利より奉行宛に出された郡政に関する条々。これは翌寛永13年1月11日付で奉行より郡奉行宛に通達された「郡中政令」の骨子となったと思われるが、遠国に封じた幕府の思惑、又隣国よりのそねみに対しても気をつけ、私心なく治めるよう命じている。(30×131cm)

## 16. 各郡明細帳

整理番号 14.19.16

細川領の肥後および豊後鶴崎・野津原の各郡別に高、人畜家数、牛馬、船および水夫数、産物、名所等を書きあげたもの。細川氏の肥後入国後実施された人畜改めと検地の結果、寛永11年に作成されたと思われるが、これの総計は石高747,657石、人口223,834人である。(26×20cm〈表紙〉)

## 17. 芦北郡人畜改帳

整理番号 文.2.2.12~13

細川忠利は入国直後の寛永10年1月23日人畜帳の作成を命じた。たゞちに領内各郡の人畜改帳が作成されたが、本書は同年5月17日提出されたものである。郡内各村、家毎に男女年令、人数、屋敷、家数、牛馬数が記録されている。(29.5×28cm〈表紙〉)

## 18. 細川忠利切紙書状 (八代蜜柑のこと)

整理番号 108.2

細川家は肥後入国後は幕府および堂上方へ献上品の一つとして毎年八代蜜柑を贈った。これは細川忠利が奉行宛に庭の蜜柑の色付きをみて八代蜜柑の手配を命じたものである。(18×13.5cm)

## 19. 細川忠利・沢庵宗彭往復書状

整理番号 赤212.15

沢庵が細川忠利に宛てた書状は数十通残されている。本書状は忠利が武道のことについて尋ねたのに対し、ひとつひとつ細かな字で丁寧に自分の意見を述べている。(16×166cm)

## 20. 沢庵宗彭書状

整理番号 赤212.15

前記の細川忠利書状(沢庵との往復書状)に対する返書。將軍家光、柳生但馬守等の消息、近況等をつけ、武道についての意見を記入して返送したことを知らせる。和歌一首あり。沢庵宗彭(1573~1645)は江戸初期の禅僧で、当時品川東海寺にあり、細川家とは忠興・忠利・光尚三代にわたり親交があった。又妙解寺(忠利菩提寺)建立にも力があつた。(33×42cm)

## 21. 沢庵宗彭書状

整理番号 赤209.無番

細川忠利没後、新藩主としてはじめて肥後に入国した光尚に贈った書状。身の養生をすること、国をよく治め隅々まで心を配って島原の乱のような事が起らぬように、又大赦を行うこと、親類

・家中の者へも油断しないように等々、若くして藩主となった光尚へ心のこもった注意を与えている。(32.4×45.6cm〈2枚〉)

## 22. 宮本武蔵へ切米の判物

整理番号 107.29.5

二天流の祖、宮本武蔵(1584～1645)は、彼57才の寛永17(1640)年に細川家に召抱えられた。はじめ8月12日に7人扶持18石、その後12月5日に米300石を遣された。この文書は奉行にあてた御印物のひとつで、忠利のローマ字印がある。(30.5×9cm)

## 23. 渡辺佐太郎矢文

整理番号 14.12.19

島原の乱では籠城中の原城内へ種々の投降勧告がなされた。本資料は城中からの矢文で、きりしたん用語をまじえ、城中の者は天国で合う覚悟で降伏しないという拒絶の返事である。(33×44cm)

## 24. 天草有馬御陳ニ被成御借候船之御帳

整理番号 14.12.13乙

島原の乱では熊本から島原への兵力の輸送や、海上封鎖作戦等に多くの船が徴発された。八代中嶋町、本町、徳淵町からは220人の船頭・加子(水夫)が、寛永14年12月2日から翌年正月21日迄に延11,000日徴用された。(28×22cm〈表紙〉)

## 25. 覚(きりしたん処刑人名付) および書物

整理番号 神雑1.67.3 神雑1.63

徳川幕府は慶長18(1613)年以降きりしたん禁令を屢々出しているが、細川氏も肥後入国直後の寛永10年2月5日の「申渡条々」できりしたん取締りの通達を出している。島原の乱後は訴人への褒賞金をふやす策をとった。本資料は訴人によって捕えられ、火あぶり、斬罪等に処せられたきりしたんの記録である。(34.5×48cm 33.5×51cm)

## 26. 追腹仕衆妻子并兄弟付

整理番号 107.29

細川忠利は寛永18年3月17日卒したが、家臣19人が殉死した。この文書は殉死者の妻子、兄弟に跡式を認めたもので、新藩主光尚のローマ字印が押印されている。「阿部一族の乱」で知られる阿部弥市右衛門については、7月9日付で跡式変更があったのでローマ字印は墨で消されている。(18×286cm)

## 27. 御秘薬之法

整理番号 107.30.1

細川忠利は諸事に造詣が深かったが、薬に関する記録も多く残されている。本書は小型皮装折帖2冊、小型冊子1冊で、内1冊に寛永3年3月吉日付棕梨玄可の「南蛮ふらいあろうす入満傳授の薬合様、療治の口傳」を傳授するという誓詞付の傳授書がある。(13×11cm—11×8.5cm)

## 28. 忠利公御仕舞附 熊野

整理番号 106.10.2

細川忠利自筆の能や仕舞の手附(伝授書)が多く残っているが、本書は「熊野」の仕舞附である。能は將軍家をはじめ各大名・武將に愛好されたが、細川家でも歴代能楽を好み、演能の記録、能楽書等が多く現存する。(33×23.5cm〈表紙〉)